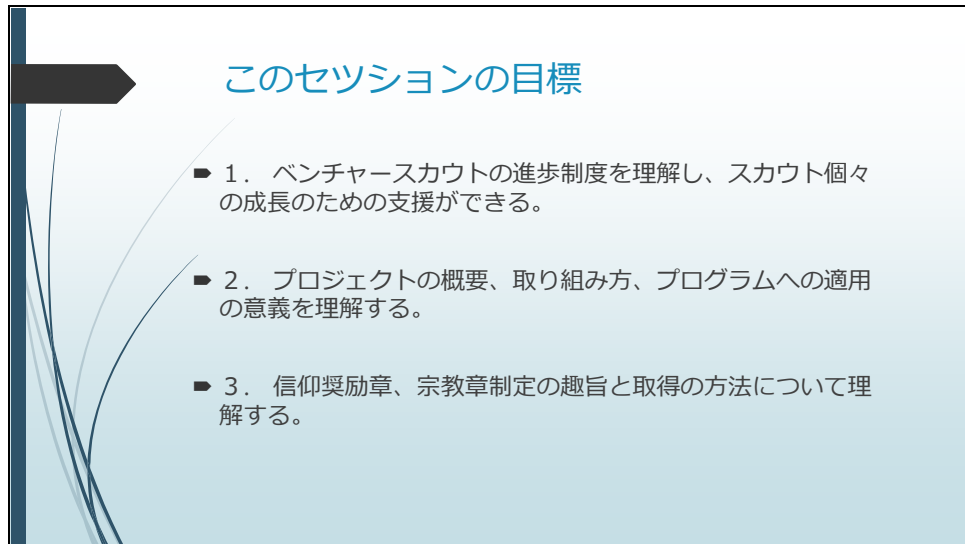


スライド 1



§4 個人の進歩

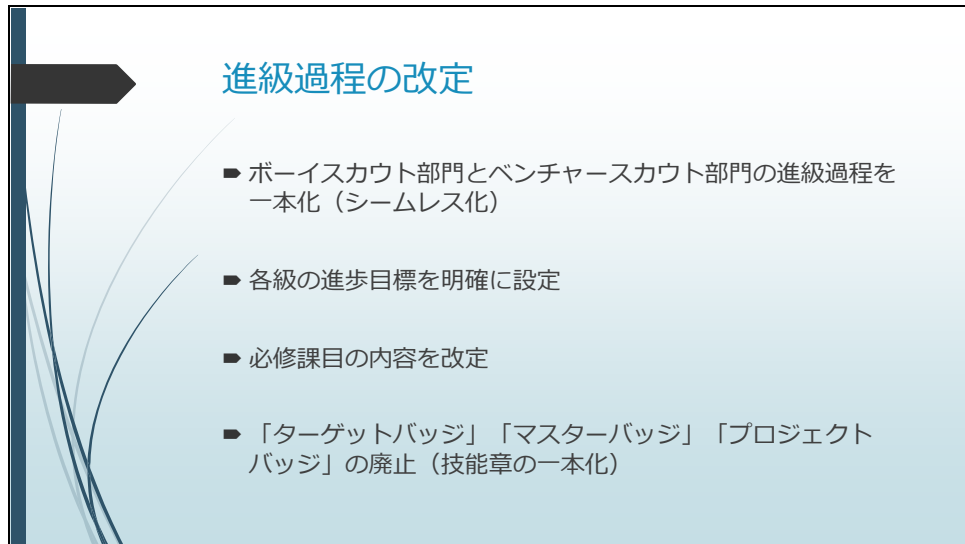
The slide features a light blue background with a dark blue vertical bar on the left side. A black arrow points to the right from the top of this bar. The title 'このセッションの目標' is written in blue text. Below the title, three bullet points are listed, each starting with a black square icon. The text is in black.

**このセッションの目標**

- 1. ベンチャースカウトの進歩制度を理解し、スカウト個々の成長のための支援ができる。
- 2. プロジェクトの概要、取り組み方、プログラムへの適用の意義を理解する。
- 3. 信仰奨励章、宗教章制定の趣旨と取得の方法について理解する。

**【セッション目標の確認 読み上げる】**

- 1.ベンチャースカウトの進歩制度を理解し、スカウト個々の成長のための支援  
ができる。
2. プロジェクトの概要、取り組み方、プログラムへの適用の意義を理解する。
- 3.信仰奨励章、宗教章制定の趣旨と取得の方法について理解する。



### 進級過程の改定

- ボーイスカウト部門とベンチャースカウト部門の進級過程を一本化（シームレス化）
- 各級の進歩目標を明確に設定
- 必修課目の内容を改定
- 「ターゲットバッジ」「マスターバッジ」「プロジェクトバッジ」の廃止（技能章の一本化）

ご存知かと思うが、ボーイとベンチャーの進級過程が改定されました。

今月から来年 8 月までの移行期間の中で、新課程に取り組むことになる。

【それぞれの項目を読み上げる。】

【次のページから少し細かく話す。】



### ボーイ部門とベンチャー部門のシームレス化

ボーイ部門の初級から菊まで ベンチャー部門のベンチャー章から富士まで  
という壁がなくなる。

については、2級・1級・菊のスカウトがベンチャー隊で次の級を取得するため  
に進歩に取り組むことがありうる。



### 進歩の目標

進歩課目	キーワード	進歩の目標
初級	仲間	初心者として、ハイキングやキャンプで自分のことが自分でできるようになる。
2級	ハイキング	班の中心として、ハイキングの計画・実施・報告ができるとともに、初級スカウトの指導ができる。
1級	キャンピング	ボーイスカウト活動の中心として、スカウトキャンプの計画・実施・報告ができ、スカウト技能全般を単独で実施できる。
菊	模範	自分の隊・班で積極的に活動でき、他のスカウトの良き模範として、班長や上級班長等、責任ある行動と指導ができる。
隼	冒険と奉仕	スカウト技能を役立てることができ、ジュニアリーダーとして基本的な隊運営の知識を有し、健全な体と精神を身につける。
富士	リーダーシップ	プロジェクトの計画・実施・報告ができ、奉仕の精神と社会の一員としての責任を持ち、社会貢献を果たせるリーダーとなる資質を身につける。

進歩課程によってキーワードと目標が明確になりました。

【表の読み上げ】

### 必修科目の改定

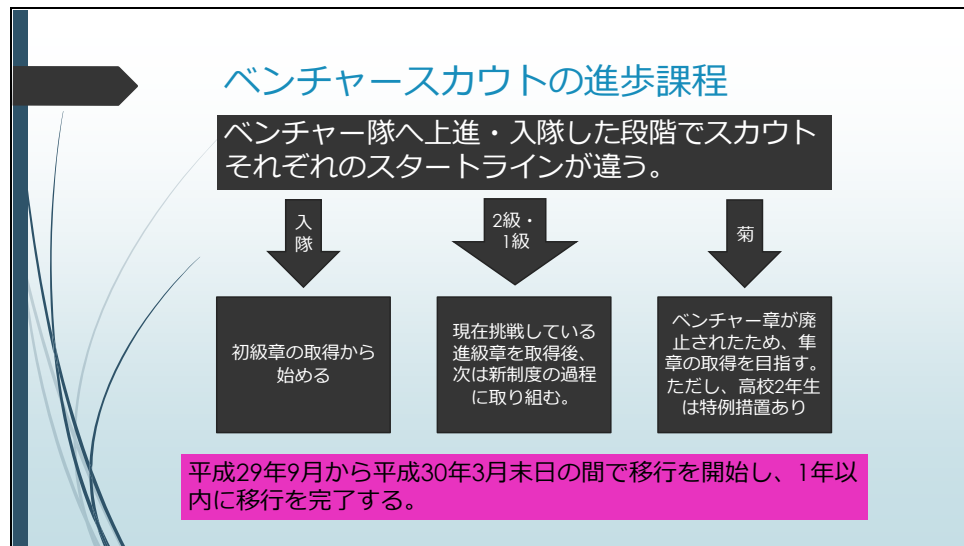
活動の分野	進級課目における主な内容
1.基本	「ちかい」と「おきて」の実践、日本国旗の意味・掲揚方法などスカウト運動の基本的な内容について理解を深める。
2.健康と発達 →スカウト精神	体力の維持向上やスカウティング・フォア・ボーイズを読んだ上で隊長と話をするなど体と心の発達について修得を目指す。
3.スカウト技能	キャンプを計画・実施・報告するために必要な基本的なスカウト技能の修得を目指す。
4.善行 →奉仕	他部門の奉仕する機会を持たせ、社会奉仕活動の参加や自らが企画・実施・報告する奉仕活動の運営といった社会貢献につながる活動を目指す。
5.信仰奨励 →信仰	スカウトタウン・サービスの参加などによる信仰奨励章の取得を目指すとともに明確な信仰を持つことを目指す。
6.班長会議 →成長と貢献	積極的な活動参加を班長会議で認めてもらうとともにプロジェクトの企画・運営により自身の成長と隊や社会への貢献を目指す。

必修科目も見直され、技能的なものが今までに比べ追加、改定されています。

活動分野は今までのものが踏襲されている。

主な内容ですが、

【表の読み上げ】



今回の改定により、ベンチャー隊には様々な段階のスカウトが在籍する可能性がある。

年度初めのスタートラインがスカウトによって位置が違う。今まで以上にということになる。

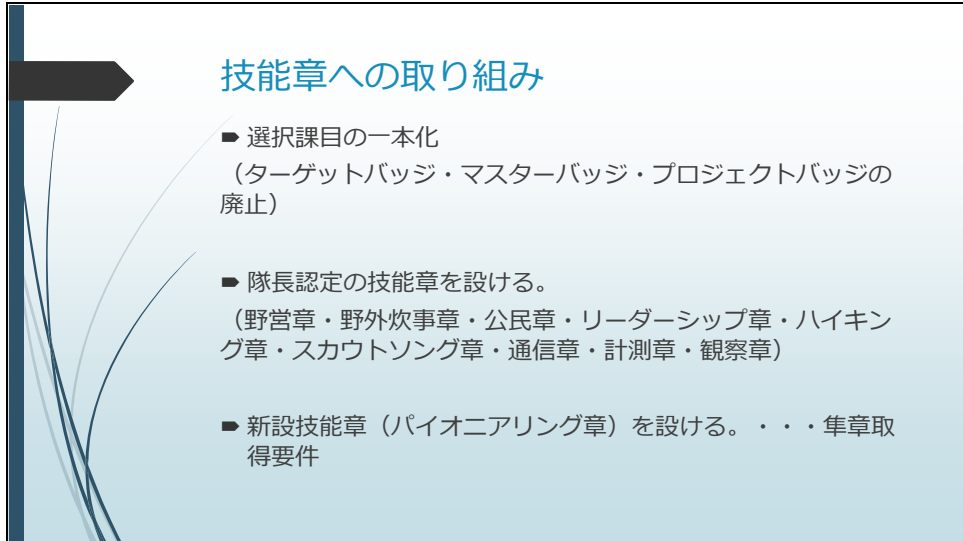
ベンチャー隊に入隊したスカウトは新課程の初級章からチャレンジ

2級・1級でベンチャー隊に上進したスカウトは、現在の挑戦している級を取得後、次の級からは新課程で



菊スカウトはベンチャー章が廃止されたため、隼章に取り組む

ただし、現在高校2年生は特例で旧課程で取り組むか新課程で取り組むかを選択できる。



### 技能章への取り組み

- 選択課目の一本化  
(ターゲットバッジ・マスターバッジ・プロジェクトバッジの廃止)
- 隊長認定の技能章を設ける。  
(野営章・野外炊事章・公民章・リーダーシップ章・ハイキング章・スカウトソング章・通信章・計測章・観察章)
- 新設技能章 (パイオニアリング章) を設ける。・・・準章取得要件

選択課目も一本化されました。

「ターゲットバッジ」「マスターバッジ」「プロジェクトバッジ」が廃止され、  
選択科目は「技能章」に一本化された。

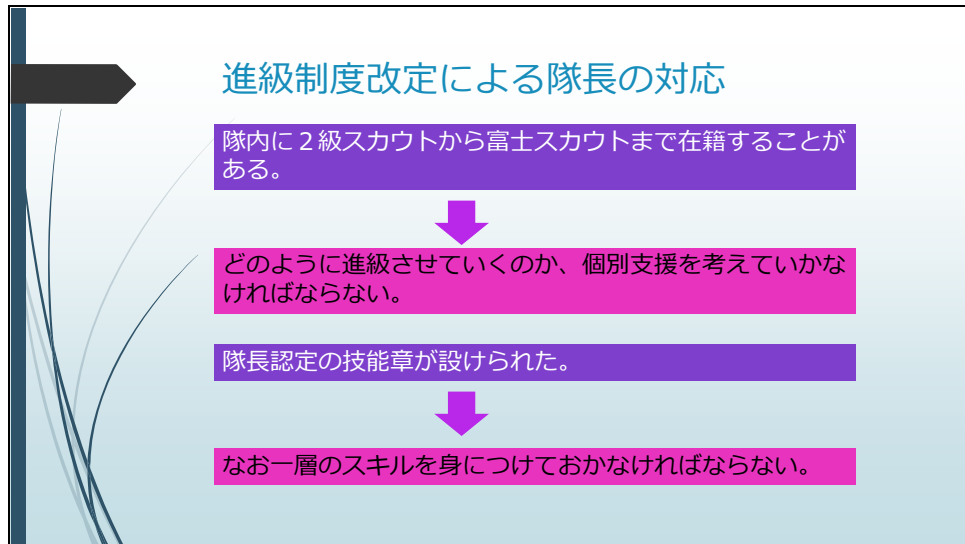
各級の取得要件にも必修技能章がある。

必修技能章の一部は隊長認定ができる。

「野営章」「野外炊事章」「公民章」「リーダーシップ章」「ハイキング章」「スカウトソング章」「通信章」「計測章」「観察章」

また新設で「パイオニアリング章」が追加された。

これは「隼章」取得の要件となる。



今回の改定により、隊長としてどのように考えていくか、対処していくか

考えられるのが2点

1点目は幅広い段階のスカウトが在籍する可能性がある。

本来、2級・1級・菊はボーイ隊という組織だから取り組めるものもあるはず

ベンチャー隊の組織では難しい項目もある。

ボーイ隊と協調しながら取得支援を考えていかなければならない。

2点目は隊長認定の技能章が設けられたこと。

技能を考査できなければならない。なお一層のスキルアップを図る必要がある。

ベンチャー隊の隊長は大変

**スカウトニーズの集約（発展）**

（例）

B君⇒地学部  
→理系ならば数学や物理にも興味があるかも？

Cさん⇒英語力を生かしたい  
→資料が英文ならばCさんを目立たせることができるか？

D君⇒野球部・カヌーが楽しかった  
→カヌーが好きだったらイカダを作らせたら、バイオニアリング草につながりそう。

E君⇒卓球部・D君と同じ思い出がある  
→D君がやる気になれば、E君もついてきそうだな。

Fさん⇒音楽が好き・活動が楽しそう  
→何か自主的に取り組ませることをアドバイスしたほうが良いな。とりあえず活動が楽しそうだし、何か見つけてくれるかな？

次に進歩制度から少し離れて、関連しているが、スカウトニーズをどのように集約するか、また発展させるか という話

例をもって考えていく

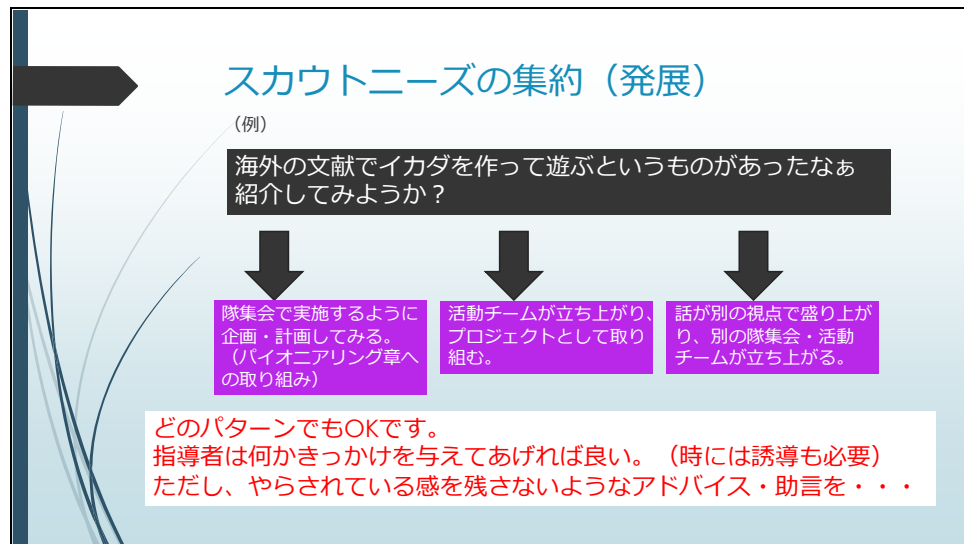
§2で登場したスカウト

B君、Cさん、D君、E君、Fさん、A君は受験勉強で忙しいということにしまし  
よう。

それぞれ特徴のあるスカウトです。

例えば

【赤字部分を映し出し、読み上げながら、隊指導者として考える例を示す。】



以上のことから、隊会議で英字で書かれたイカダ作りだとか、どこかの景色のいい渓谷でイカダで遊ぶなどの記事を見つけて、スカウトに見せたとします。

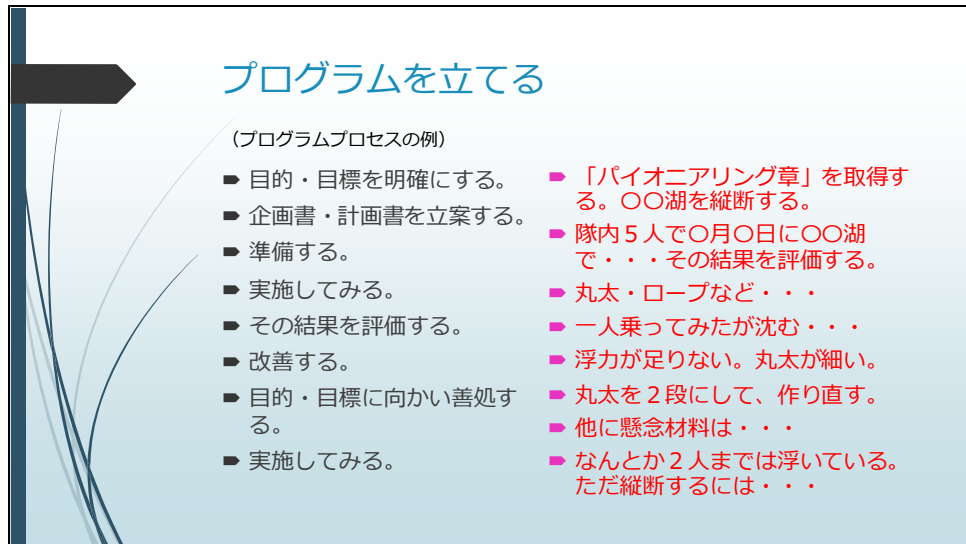
そこで盛り上がれば隊集会のヒントにもなるかもしれない。全員が賛同できなくてもプロジェクトとして活動チームが結成されるかもしれない。また話がそれを起点に別の分野で盛り上がるかもしれない。

英語力にたけているCさんが注目される。隊会議の主役となる可能性がある。他スカウトからの評価が上がる可能性がある。



隊指導者はまず水面に石を投じてみて、波を起こさせたい。それでも波が起きなければ時には誘導することも必要。

ただし、注意はスカウトがやらされている という感を残さないように 言い方、間の取り方に工夫して、アドバイス、助言をしたい。



## プログラムを立てる

(プログラムプロセスの例)

- 目的・目標を明確にする。
- 企画書・計画書を立案する。
- 準備する。
- 実施してみる。
- その結果を評価する。
- 改善する。
- 目的・目標に向かい善処する。
- 実施してみる。

- 「パイオニアリング章」を取得する。〇〇湖を縦断する。
- 隊内5人で〇月〇日に〇〇湖で・・・その結果を評価する。
- 丸太・ロープなど・・・
- 一人乗ってみたが沈む・・・
- 浮力が足りない。丸太が細い。
- 丸太を2段にして、作り直す。
- 他に懸念材料は・・・
- なんとか2人までは浮いている。ただ縦断するには・・・

では隊集会で実施しようということになった時

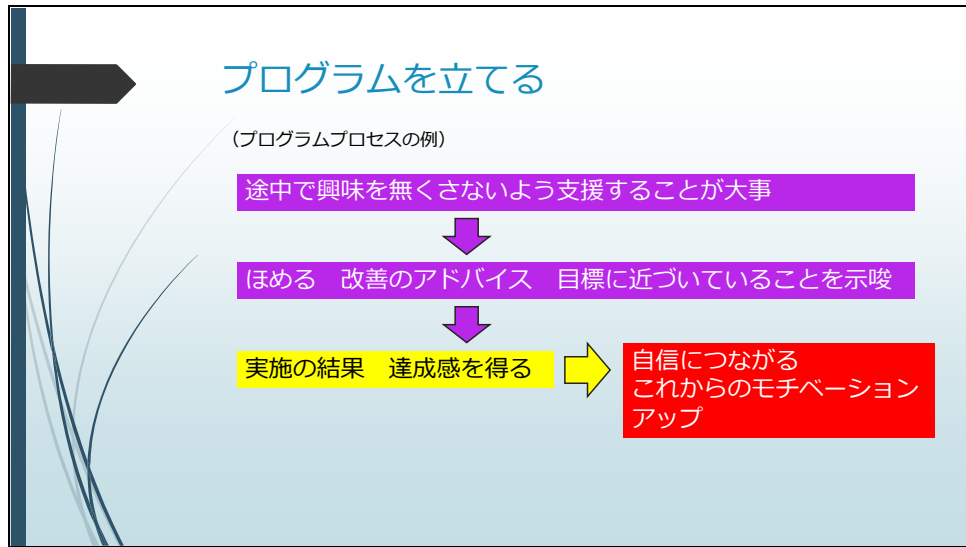
プログラムをとどのように立てていくか プログラムプロセスの例として見てみると

【黒字部分を順次読み上げ】

ここで大事なの一過性で終わっていないというところ、目的・目標に向かって次の実施に取り組んでいるというところに注目してください。

このプロセスで例えば先ほどのイカダ作りを当てはめてみると

【赤字部分の順次読み上げ】



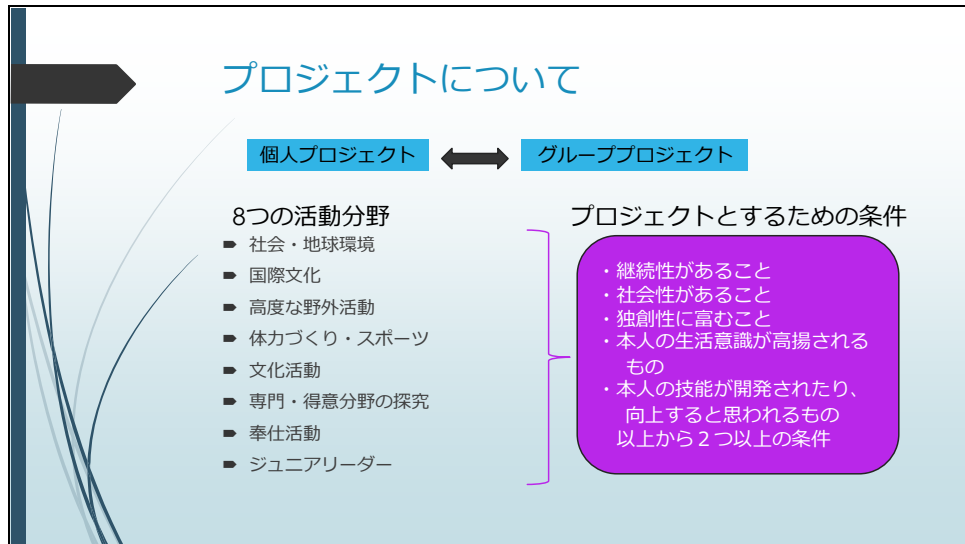
プログラムプロセスは、継続性を持たせること 次への発展性を持たせることが必要

そのためにも指導者として、途中で興味を失わないように支援し、時にはほめて、アドバイスを繰り返しながら、スカウトに目標が近づいているということを示唆する。

結果、目標に到達できた時の充実感、達成感をスカウトに感じさせる。

スカウトには自信と次につながる隊集会、プロジェクトのモチベーションアップ

プとなる。



次にプロジェクトの話

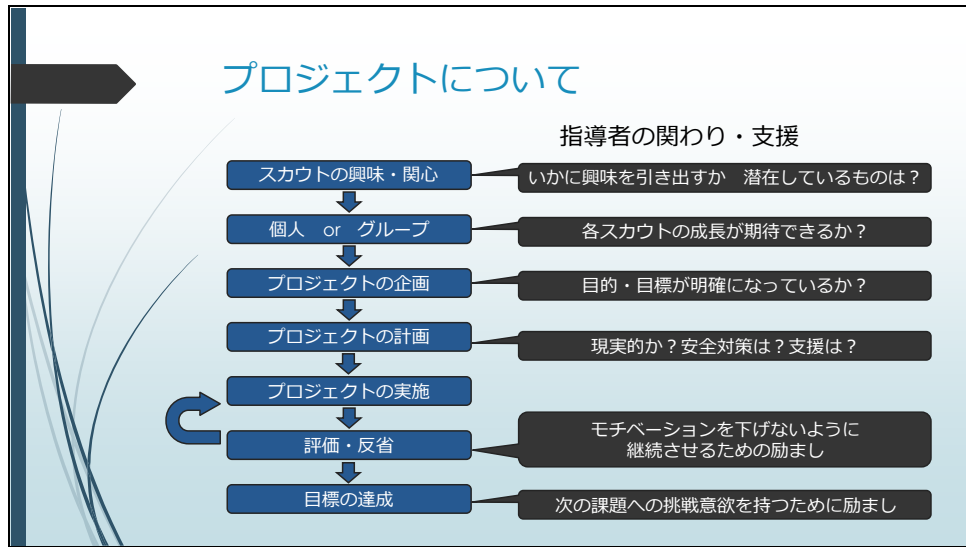
プロジェクトバッジは廃止されたが、プロジェクトの考え方は変わっていない。

隊スカウト全員が技能習得に取り組むのが隊集会、スカウトの興味、関心により、個人または他のスカウトと取り組むのがプロジェクト

8つの活動分野【読み上げる】

プロジェクトとするための条件が規定されている【読み上げる】

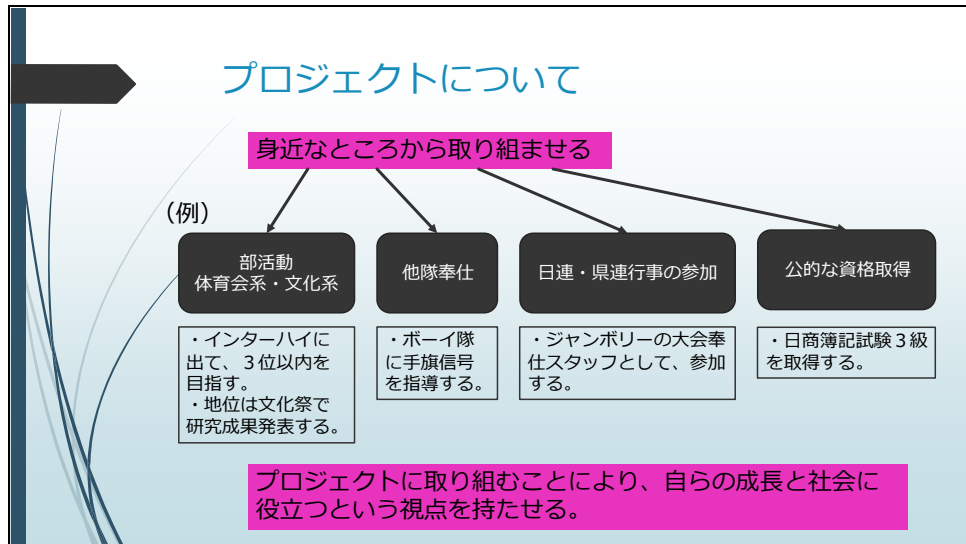




プロジェクトのプロセスも先のプログラムプロセスと同様だが、改めて各過程による指導者の関わり・支援という面から振り返ると

【青枠に対応する黒枠文字の読み上げ】





なかなかプロジェクトとして、スカウトが取り組めない。また取り組まない。

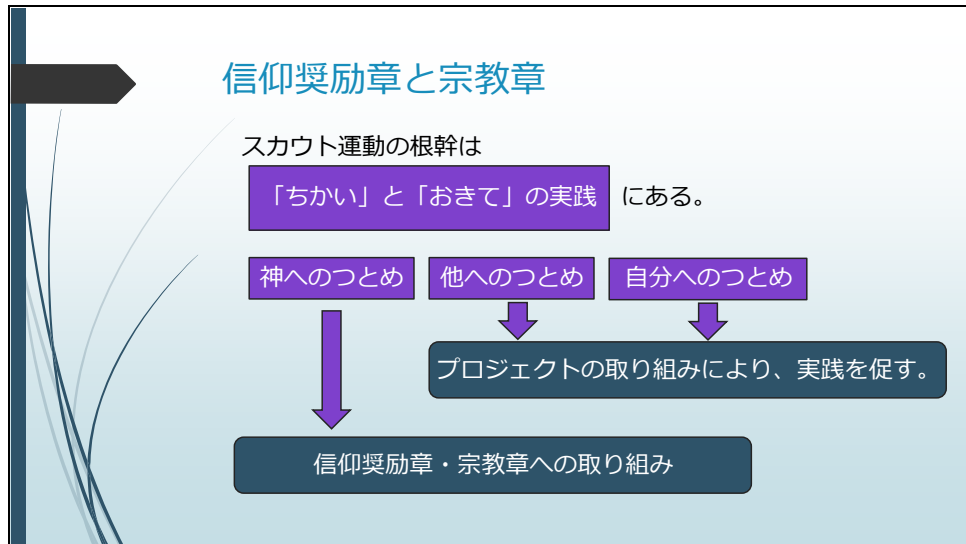
原因が何に取り組んでいいかわからないといった時の一例として紹介する。

身近なところから取り組む

プロジェクトだからと言って大上段に構える必要はない。すでに取り組んでい  
ること。また取り組みチャンスが用意に見つけられることから始めてもいい。

【例として、それぞれ読み上げて紹介する。】

大事なのは、スカウトがプロジェクトに取り組むことによって、自らが成長するということ。社会に出た場合にプロジェクトプロセスが効果的に役立てられるという視点を持たせること。



最後に信仰奨励章と宗教章について

スカウト運動の根幹は「ちかい」と「おきて」の実践

ビーバー部門からボーイ部門までも実践しているだろうが

スカウトの最終的な到達点は、明確な信仰を持つということではないだろう

か？

各種宗教団体を育成会としている団では、早くから取り組まれているので、最終到達という言葉はふさわしくないかもしれないが、私の知っているスカウトの多くということで聞いていただければありがたい。

「ちかい」は、「神のつとめ」「他へのつとめ」「自分へのつとめ」と言葉を変えて置き換えられる。

スカウトに「ちかい」と「おきて」実践記録をとらせると圧倒的に「誰かに何かしてあげた・・・」という事項が多いです。「他へのつとめ」が意識しやすいでしょう。プロジェクトによっては「自分へのつとめ」体力向上など意識を植え付けることができるかもしれません。

では「神へのつとめ」は、プロジェクトによって取り組まれるケースもあるかもしれませんが、補完的に信仰奨励章や宗教章の取得ということで、自分を内面から考える機会を作って、「ちかい」の実践に取り組ませると考えられる。

信仰奨励章の取得要件	宗教章の授与基準
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初級以上のボーイスカウト、またはベンチャースカウトであること</li> <li>2. 隊集会やキャンピング・ハイキングでスカウトタウン・サービスに参加する。</li> <li>3. スカウトタウン・サービスで、自分ができる役割を果たし、ちかいとおきてを日常で実践したこと、感じたことを発表する。</li> <li>4. 隊集会やキャンピング・ハイキングでスカウトタウン・サービスで主要な役割を果たす。</li> <li>5. 「アンノウンスカウト」の逸話を調べ、適切な表現形式（劇・紙芝居など）で隊の仲間や他の人々に伝え、自分の「日日の善行」の実績のようすについて話す。</li> <li>6. 班で年間を通じて行える奉仕活動を考え、隊長の指導のもとに実施する。</li> <li>7. 自分の家の宗教（派）か、興味を持った宗教（派）の宗教儀礼、宗教行事、またはスカウトタウン・サービスに参加する。</li> <li>8. 自分の家の宗教（派）か、興味を持った宗教（派）の教導職から信仰や宗教について話を聞く。</li> <li>9. B-Pのラストメッセージを読んで、班集会で話し合う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 登録完了の1級以上のボーイスカウト、ベンチャースカウト及びローバースカウトであること。</li> <li>2. 自分の所属している教宗派の歴史と教えを知ること。</li> <li>3. 自分の所属している教宗派の宗教行事について知ること。</li> <li>4. 礼拝の作法について知ること。</li> <li>5. 信仰に基づき、地域社会のために奉仕すること。</li> <li>6. 自分の生活の中に教えをどのように実践しているか記録を提出すること。</li> </ol> <p>⇒各教宗派は、上記授与基準を制定し、日本連盟の承認を受ける。</p>

## 信仰奨励章の取得要件と宗教章の授与基準

【時間があればそれぞれ読み上げる】

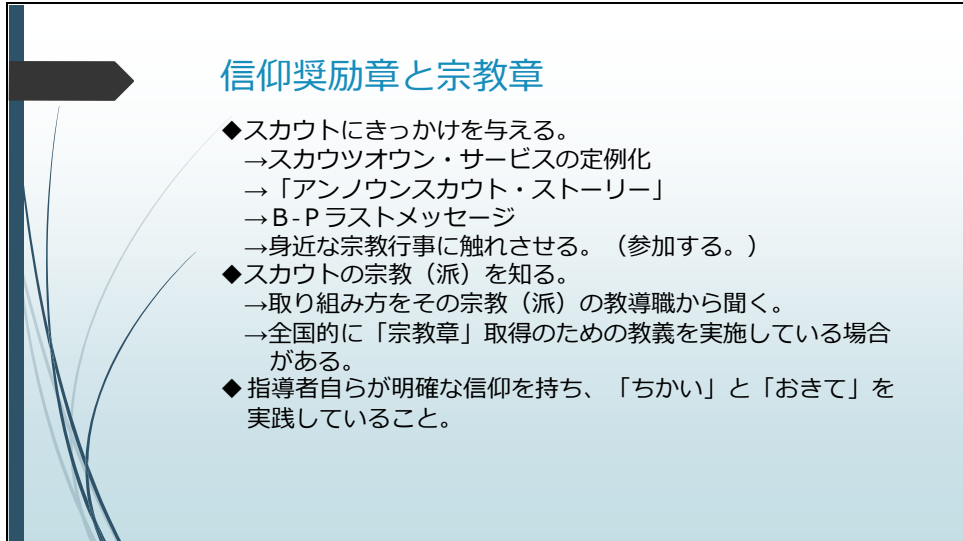
信仰奨励章が取得要件なのに宗教章は授与基準となっています。

信仰奨励章は隊長が認証し、所属団の申請によって取得できるのに対し、宗教

章は教導職の方が授与基準を認証するという違いがある。

信仰奨励章は宗教章取得へのきっかけ、ステップである。





### 信仰奨励章と宗教章

- ◆スカウトにきっかけを与える。
  - スカウトタウン・サービスの定例化
  - 「アンノウンスカウト・ストーリー」
  - B-Pラストメッセージ
  - 身近な宗教行事に触れさせる。(参加する。)
- ◆スカウトの宗教(派)を知る。
  - 取り組み方をその宗教(派)の教導職から聞く。
  - 全国的に「宗教章」取得のための教義を実施している場合がある。
- ◆指導者自らが明確な信仰を持ち、「ちかい」と「おきて」を実践していること。

隊指導者として、信仰へのきっかけをどのようにするか

スカウトタウン・サービスの定例化 習慣化 いつでも どこでも

「アンノウンスカウト・ストーリー」の振り返り ボーイハンドブック

B-Pラストメッセージ討論 討論の場を設けてあげたい。

機会があれば、宗教行事への参加・奉仕

スカウトそれぞれの宗教を知っておく

その宗教ではどのように授与されているか 教義はどのようなのか調べる。

宗教によっては、宗教章取得のための教義を行っている場合がある。

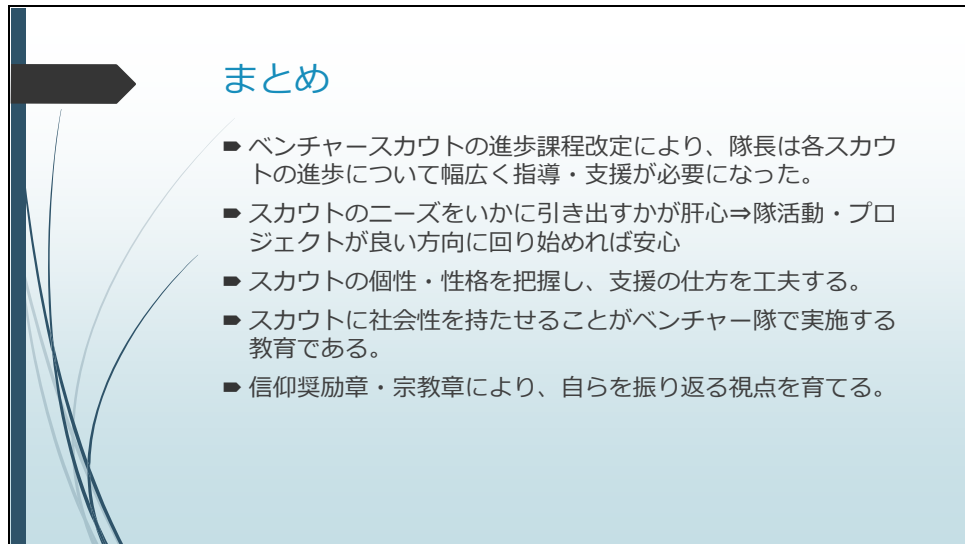
「日蓮宗」1年に一度10月と3月に教義を行うので、それに参加すればもれ

なく宗教章が授与できるとのこと。 もれなく？

指導者はスカウトの模範となるよう 自らも明確な信仰をもち、「ちかい」と

「おきて」実践の指導に当たっていただきたい。





The slide features a light blue background with a dark blue vertical bar on the left side. A black arrow points to the right from the top of this bar. The title 'まとめ' is in blue. The list items are preceded by black square bullet points.

### まとめ

- ベンチャースカウトの進歩課程改定により、隊長は各スカウトの進歩について幅広く指導・支援が必要になった。
- スカウトのニーズをいかに引き出すかが肝心⇒隊活動・プロジェクトが良い方向に回り始めれば安心
- スカウトの個性・性格を把握し、支援の仕方を工夫する。
- スカウトに社会性を持たせることがベンチャー隊で実施する教育である。
- 信仰奨励章・宗教章により、自らを振り返る視点を育てる。

まとめ

【一つずつ読み上げながら】

ベンチャースカウトの進歩課程改定により、隊長はカクスカウトの進歩について幅広く指導・支援が必要になった。

スカウトのニーズをいかに引き出すかが肝心 隊活動・プロジェクトを良い方向に回り始めるまで 支援とアドバイス 回り始めれば安心

スカウトの個性・性格を把握し、支援の仕方を工夫する。

プロジェクトや隊集会によって、スカウトに社会性を持たせることがベンチャー  
一隊で実施する教育である。

信仰奨励章、宗教章により、自らを振り返る視点を育てる。

生田目より

①新進歩過程について十分理解されるように願います。

②スカウト自身の興味→ニーズ→。。。と自身が考え行動し結果に責任を持つ。

自ら。。。の部分に強く触れてください。

③宗教章・信仰奨励章の区別は明確である。と伝えてください。